

No. 3	議席番号	氏名	質問事項・要旨及び答弁者
	7	相澤 巧	
<p>木古内町非核平和都市宣言について</p> <p>戦後79年が経過し、当時の戦争や原爆の惨禍を体験した人たちが高齢などで亡くなり、少なくなっている現状にあります。</p> <p>木古内町では、犠牲者の慰霊のため当初戦没者慰霊祭として実施され、その後平和祈願祭と名称を変え、さまざまな行事を行ってきましたが、平成27年に木古内町遺族会が会員の減少と高齢化により解散となってからは、追悼式も行われず現在にいたっています。</p> <p>そこで平成27年12月定例会で出されたのが「木古内町非核平和都市宣言」です。内容は、“戦争のない平和な世界と核兵器の廃絶は、人類共通の願いです。”から始まり、“私たちは、全ての核兵器の廃絶と自然豊かな郷土を守り、恒久平和の実現を目指し、ここに「非核平和都市」を宣言します。”としています。</p> <p>まさに、町民の皆さんの平和を願う心を真直ぐ素直に表していると思いますが、ほぼ10年町から何の表明もアクションもありません。</p> <p>そこで次の2点について町長の見解を伺います。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 何もなければ人は忘れがちになります。この平和への想いは次世代にも継承していかなければいけません。一定期間庁舎に懸垂幕を掲げ、防災無線で広報するなどを行う考えはありませんか</li> <li>2. 日本原水爆被害者団体協議会がノーベル平和賞を受賞しました。毎年行われる原水爆禁止世界大会では、非核平和を願う世界中のたくさんの人たちが集い講演や交流が行われ、大会の開催と成功の世論を広げるため行われる国民平和大行進のゴールは広島、長崎となっております。この大会は、なぜ原水爆を廃絶しなければならないのか等を学ぶ貴重な機会と考えますが、当町の中学生を次世代の平和を願う大使として派遣する考えはありますか。</li> </ol>			町長